

Vol.18(2020) No.07(04/10)L02

重症COVID-19患者でのヒドロキシクロロキンおよびアジスロマイシン併用治療による早期のウイルスクリアランスまたは臨床的有用性のエビデンスは示されなかった

[No Evidence of Rapid Antiviral Clearance or Clinical Benefit with the Combination of Hydroxychloroquine and Azithromycin in Patients with Severe COVID-19 Infection](#)

Molina JM, Delaugerre C, Goff JL, et al.

【Med Mal Infect. 2020 Mar 30】-peer reviewed

(抜粋・要約)

◇Gautretらの臨床研究結果¹⁾

Gautretらの臨床研究報告¹⁾を受けてヒドロキシクロロキンを用いるCOVID-19治療に多大な関心が寄せられており、フランス保健省は、現在進行中の臨床試験の結果を評価するまでの間、COVID-19治療のためのヒドロキシクロロキンの使用を許可している。

◇本論文による結果

入院中のCOVID-19患者11人を対象として、Gautretらの報告と同一の投与レジメンであるヒドロキシクロロキン(600 mg/日を10日間)＋アジスロマイシン(Day-1に500 mg, Day-2～Day-5に250 mg/日)投与によるウイルス学的転帰や臨床転帰を前向きに評価した。

対象患者は、男性7人、女性4人で、平均年齢は約60歳。8人は転帰不良に関連する重大な併存疾患を有していた。

治療開始時に11人中10人に発熱がみられ、経鼻酸素治療が実施された。5日以内に患者1人が死亡し、2人がICUに転送された。1人の患者はQT間隔延長のためDay-4にヒドロキシクロロキン＋アジスロマイシン併用治療を中止した。Day-3～Day-7のヒドロキシクロロキンの平均血中濃度は、約680 ng/mLであった。

10人の患者(死亡した1人を除く)について、鼻咽腔スワブの定性的PCRアッセイを複数回行ったが、Day-5およびDay-6において患者10人中8人がSARS-CoV-2陽性であった。

◇考察および結論

本研究におけるウイルス学的結果はGautretらの報告と対照的であり、ヒドロキシクロロキン＋アジスロマイシン併用治療の強力な抗ウイルス効果に疑問を投げかけるものである。

◇参考文献

- 1) Gautret P, Lagier JC, Parola P, et al. Hydroxychloroquine and azithromycin as a treatment of COVID-19: results of an open-label non-randomized clinical trial. *Int J Antimicrob Agents*. 2020 Mar 20:105949